

つばさ通信



かすみがうら市議会議員 みやじま謙活動報告

発刊にあたって

があります。しかし、使える施設を放棄してまで、新しい施設を建設する理由はありません。

とされる茨城町美野里クリーンセンターは、延命化工事なしで、34〜35年間も使用するわけですし、お隣の土浦市では、平成4年竣工の施設を長寿命化し、平成48年まで使用道を選択しているのです。

本年1月25日に行われた、かすみがうら市議会議員選挙で議席をいただきました。みやじま謙です。ご支援いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

は、その街から経済力を奪い、やがては破綻に追い込んでいきます。千代田地区、出島地区、それぞれの地区の発展が大切なことは言うまでもありません。

動き出した ゴミ処理場新設計画

賛成多数で議会通過

3月3日から24日まで開催された、かすみがうら市議会の平成27年度第一回定例会で、賛否が大きく割れた議案がありました。それは、茨城町、小美玉市、石岡市、かすみがうら市で新・霞台厚生施設組合を結成し、132億円をかけてゴミ処理施設を新設しようという計画です。

まだ使える施設をなぜ

かすみがうら市では現在、新治地方広域事務組合の環境クリーンセンターでゴミ処理をしています。

この施設は平成7年竣工で、ほぼ20年が経過したのですが、まだまだ十分使える施設で、当市全域と土浦市の新治地区、石岡市の八郷地区のゴミを焼却しています。



まだまだ現役の新治地方広域事務組合クリーンセンター

また石岡市では、石岡市街のゴミを霞台厚生施設組合環境センターで処理しています。石岡市街のほか、小美玉市の小川、玉里地区のゴミも処理しています。この施設は平成6年竣工で、約21年が経過していますが、こちらもまだまだ使えます。他方、茨城町と旧美野里町のゴミ処理をしている茨城美野里環境組合クリーンセンターが29年目を迎え、建て替えの必要性が言われています。この3つの処理場のうち、茨城美野里クリーンセンターだけの建て替えであれば問題ないのですが、この計画に便乗するように、石岡市とかすみがうら市も、一緒に新しいごみ焼却場を作ろうという計画が進められているのです。平成32年から33年共用開始としています。その背景には、ゴミ処理広域化の方針が、国・県から出されていること

市民への説明責任は？

さて、かすみがうら市では、昨年7月に坪井市長が就任直後の8月に、霞台厚生施設を中心とする広域・新設グループに入ることを表明しました。

ちなみに宮嶋前市長は、今使っている施設を大切に延命し、県南市町村の合併の進捗と合わせて、じっくりと検討していく方針を示していました。坪井市長は「総合的に検討した結果であり、茨城町・石岡市・小美玉市とのグループに入るには今が最後のチャンスで、これを逃すとかすみがうら市の将来のゴミ処理が危ない」と言っています。しかし、現在使用している新治広域環境クリーンセンターが、いったいいつまで使えるのか、今後、どの程度の費用がかかるかと何年持つのか、検証が一切なされていないのです。延命化工事が必要かどうかさえ、今現在は誰にもわかりません。そろそろ寿命を迎える

この132億円には、新設にかかる用地買収費や、古い施設の解体費用などは含まれていないため、さらに大きく膨らむ可能性ががあります。私は議会で「あと1年、せめて半年かけて検証し、市民に十分な説明をすべき」と主張しました。現状調査もせず、説明責任も果たさない、こんな強引なやり方が許されてよいはずがありません。この議案は、施設新設を計画する組合への参加について議会に承認を求めたものですが、事実上の建設容認を意味します。宮嶋、矢口、田谷、佐藤各議員が反対しました。賛成多数で可決となりました。

紙名『つばさ通信』の由来は、中央がくびれたかすみがうら市の形が、鳥のつばさのように見えるからです。かすみがうら市は10年前、旧・千代田町と旧・霞ヶ浦町(旧・出島村)が合併して生まれました。合併に至るまで、さまざまな経緯があったようですが、10年が経過した今、私たちを取りまく状況は大きく変わりました。急速に高齢化が進み、少子化に歯止めがかかりません。急激な人口減少

は、今こそ両翼が心を合わせ、力いっぱい羽ばたかなければならないと思うのです。そんな想いから命名した『つばさ通信』。議員活動の基本スタンスも、「全市一丸」です。かすみがうら市は将来、どういふ方向性を目指すべきか、そのために今、何をすべきか、これからの正念場です。千代田と出島は鳥の両翼です。心合わせて羽ばたきましょう！



の活動の一環として『つばさ通信』という広報紙を継続して発行させていただけでなくことになりまし。

すでに日本中の自治体による生き残り合戦が始まっています。私たちが生き残るために

27年度第一回定例会 一般質問

職員数の適正化について

厳しい財政状況で、一層の経費節減が求められているなかで、業務の見直しと効率化、職員の能力向上を推進して定員の削減を図る必要があります。現在の職員数に対する認識と、今後の計画について質問しました。

坪井市長および執行部からは、現在の職員数（平成26年4月1日現在409名）については、類似団体と比較して多くはない、との回答でした。しかし、今後の人口減少の影響を考慮すれば、



トピックス1

自主財源減り苦しい予算

第一回定例会で可決された平成27年度的一般会計予算は、前年度比10.2%増の180億円で過去最高となりました。特別会計を含めると9.4%増の291億8900万円。神立駅周辺整備や小学校統合関連費用、おあつ野へ移転する土浦共同病院への財政支援などによって、歳出が増えた予算になっています。

一方の歳入では、市民税や固定資産税などの自主財源が減収となっており、それを補う形で国や県からの交付金が増え、さらに財政調整基金の取り崩しを行っています。歳入で自主財源の割合が減っていることは、依存体質の傾向が強まり、自主的な政策が実行しにくくなっているということです。

水道料金の値下げについて

坪井市長が選挙公約に掲げていた水道料金の値下げについて、その内容と時期について質問しました。また、値下げの財源を何に求めるかについても訊きました。

坪井市長が選挙公約に掲げていた水道料金の値下げについて、その内容は、現在の10㎡の基本水量制を従量制にする、合わせて消費税増税分相当（3〜5%）の値下げをしたいとの回答でした。

その時期に関しては、26年度から会計制度が変更となった関係で、決算を終えた後で結論を出したいとのことでした。

値下げの財源については、営業努力で経費を節減しつつ、足りない部分

トピックス2

小学校統合問題の影響が

千代田地区の小学校統合問題が暗礁に乗り上げたままになっているため、既存の小学校の耐震補強や空調設置などの事業が行われます。

今回の予算審議では、新治、七会、上佐谷各小学校にエアコンを設置するため、その設計業務に1100万円の予算が充てられていることが問題となりました。エアコン未設置の

小学校の児童に、夏も快適な環境を提供するという目的はわかりませんが、設計に1100万円もかける必要があるのか、という議論です。

考えてみれば、統合問題が決着していれば耐震補強も空調設備も不要だったわけで、将来を見据えた教育行政がなされていないことが、この予算にも現れています。

明日への思い

議員生活3ヶ月。ヨチヨチ歩きの新人議員にとって、初議会が緊張の連続でした。しかし多くの先輩議員の皆さんにアドバイスをいただき、なんとか乗り切ることができました。ありがとうございます。

議会に参加して一番強く思うことは、将来を見据えた政治の大切さです。

例えばゴミ処理場建設問題では、果たして10年後、15年後のかすみがうら市はどうなっているのか、隣接市町村との合併はどういう方向性を指すのかなど、将来像は抜きにして、ゴミ問題だけを取り出した議論がなされています。

消防、警察、水道、農協などとも関連して、あらゆる広域連携は、市の将来像抜きに語れないはず。小学校の統合問題にしても、つくば市や土浦市との教育格差が顕著になりつつある今、将来を見据えた抜本的な教育行政の見直しをしなければ、決して良い結果は得られないと思うのです。